

岩石磁気的手法による台湾チェルンブ断層の温度履歴推定

Thermal history estimation of Chelungpu Fault using rock-magnetic methods

三島 稔明 [1]; 廣野 哲朗 [2]; 徐 垣 [2]

Toshiaki Mishima[1]; Tetsuro Hirono[2]; Wonn Soh[2]

[1] 高知大・海洋コア; [2] JAMSTEC

[1] CMCR, Kochi Univ.; [2] JAMSTEC

台湾チェルンブ断層掘削 (TCDP) 試料のいわゆる Black Material (BM) は高い磁化率を示す。その原因となる磁気的特性の変化を探るため、岩石磁気分析を行った。低温磁気分析では BM 試料は 30 K までの温度で安定な磁化の大部分を失うことから、磁性鉱物の粒径は非常に細粒のものが多いと考えられる。また、BM 周辺のガウジ試料の熱磁気曲線で見られる 400 度以上での磁化の増加が BM 試料では見られない。これはガウジ試料を実験室中で 400 度以上に加熱したときに生じたと考えられる常磁性鉱物から magnetite への変化が、BM 試料では既に生じた後であると解釈できる。